



常任理事会に出席し、自己紹介する

同友会事務局での受け入れ
 同友会本部事務局でも、今年7月4日、6日の3日間、郡山北工の生徒を3名、ジュニア・インターンシップとして受け入れました。事務局内では、電話受け、お茶出し、会議室の設営、会議資料の印刷を行ったり、実際に常任理事会に出席し、皆さんの前で自己紹介することも体験しました。

また、会員企業を訪問し、社長や人社したばかりの社員からお話を伺ったり、同じくインターンシップに来ている生徒を取材して記事にまとめたり、その会社の仕事を実際に体験させてもらったりなどして3日間を過ごしました。

工業高校である郡山北工では、勤労観を養う目的で、以前から就職希望の生徒を中心に、各学年20名程度企業実習を行ってきました。しかし、平成15年度から、当時の校長先生の方針で、2年生の生徒全員が「ジュニア・インターンシップ」として、7月第1週目を中心に、企業で3日間の職場体験学習を行うことになりました。

「今年で4年目になり、少しずつインターンシップを理解してくださる企業さんも増えてとても嬉しいです。」と語る鈴木倫子先生にお話をうかがいました。

「今の高校生は、職業についての感覚が薄くなっている。親が何をしているかわからない子も少なくはありません。自営業、専業農家も前より減ったため、目の前で実際に人が働いている姿を子供が見る機会が減っているのです。だから、本当の「労働」「働く」ことの重要性を知らない生徒がたくさんいます。その生徒たちに、『働くってキツくて大変なことだけじゃない

鈴木倫子先生に聞く
 福島県立郡山北工業高等学校 進路指導部長
 新務局長 鈴木倫子

んだよ。世の中の役に立つことって素敵なこと、仕事で満足感や生きがいを持つというところは、生活の充実にもつながるんだよ。」ということを職場体験を通じて少しだけでも感じ取ってきてもらいたいのです。高校卒業後の目の「就職」でなく、これから先、何十年も世の中で働くこと、責任を持って生きていくことの重要性、充実感を実習体験の中で見つけてきてもらいたいと思っています。」

進学・就職関係なく全生徒に職場体験学習を経験させることへの深く、熱い想いを感じました。

「たった3日間のインターンシップでも、終わったあとの生徒は、働くことを強く意識し始めたり、あの人と一緒に働きたいなどと語ってくれたりするんですよ。学校を卒業し、これから一緒に社会で生きていく、仲間」として、素敵な人生を作ろうとしている生徒たちを応援していきたいものです」と、我が子を見つめるような温かい目で語ってくれました。

仕事や人生について 経営者が生徒に語る 『職業講話』
 在学中に多様な働き方に対する理解を深め、将来の進路選択を考えてもらうべく、中学、高校で人生の先輩が体験報告をする職業講話も増えていきます。同友会郡山地区でも職安を通して昨年度から依頼が急速に増え、「創業者」「若手」「後継者」「女性」希望など、今年度は、中学校、高校、専門学校、養護学校など47校で19名の会員さんが職業講話を行なっています。「職業に対する意識が強まった」という生徒の反応はもとより、「今どきの子供は、って思っていたけど、それは偏見と気付いた。実際中学行くと、挨拶は元気だし、講話に素直に反応するし、良い子はかりだった。今後採用を視野に入りたい」と講話を終えた会員さんの声も聞こえてきます。

入局3年4ヶ月
 事務局佐々木

私が初めて高校生のインターンシップに接したのは、入局して5ヶ月目のことでした。「高校生に教えてね」と突然3人も任され、事務局の仕事どころか「同友会」もまだわからない私が、「何を教えるの？」と正直戸惑いました。高校生に接する嬉しさ反面、不安で一杯でした。

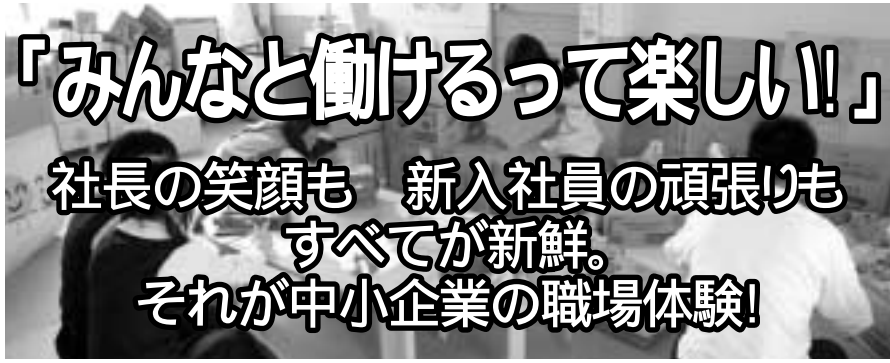
自社 自分を見直す契機
 同友会も事務局の仕事も何も

わからない高校生に、自分の今の仕事を説明する、自分が5ヶ月間働いてきたことを話す、一緒に行動する、質問に答える、感想を聞く。

「なんで？」の問いに、真剣に仕事の意味や今後の課題や問題点を話し、解決策を考える自分「楽しそうですね」の一言で、仕事をもちと自慢したくなる自分。そんな自分を発見できたことがとても嬉しかったことを覚えていきます。

みんなが笑顔の企業を
 今月は、初めて「専門学校」の生徒さんがインターンシップとして同友会事務局にも来てくれます。「働くってすごく楽しいこと」をつまみ学生さんに伝えることができた。「ここで職場体験できて良かった。こんな職場で働きたい」と少しでも感じてもらいたい。また、自分自身新たな発見ができることを期待して楽しみにしています。

地域の子供は地域の企業に
 私は県外出身者ですが、福島が大好きです。だから、地元の子供さんたちは、もっともっと生まれ育った福島や福島の企業が大好きだし、ここで生活したいと思います。そんな可能性を秘めた、地元を愛する地域の子供たちと一緒に、明るく暮らせる街やイキイキ働ける企業をこれからも作っていったら素敵です。



社長の笑顔も 新入社員の頑張りも すべてが新鮮。それが中小企業の職場体験!

インターンシップ
 現在、若年層の失業率、離職率の高さは社会問題になりつつあり、大学、高校、中学でも急速にインターンシップが取り組まれ始めています。福島県内では、平成12年、新規高卒者の求人倍率が過去最低を記録しました。そうした事情もあって、職安・学校・企業が手をとり合い、在学中に就労体験を行なえる環境を



郡山自動車学校でのインターンシップ 今年4月に入社した関根さん(写真左)が「5ヶ月間働いて感じたこと」を率直に高校生に語る

教育係は「お客様」「生徒さんには、スーパーでの仕事を体験する」というのはもちろんですが、「働くこと」を通じて、現場でたくさんのお客様と接していただきたく思っています。お客様に接する中で、挨拶やおじぎの仕方を覚えたり、時には職場体験と言えども「スーパーの一店員」として見られ



生徒と一緒に嬉しそうな東城店長(左)

「フイワンとしては毎年インターンシップの受け入れは恒例になってきているのですが、私が同じ店内で実際に担当するのは初めてなんです。」

フイチエーン富久山店・東城善善店長は、この夏初めてインターンシップ受け入れを体験しました。



笑顔溢れる店内

「現場で今日働いてみて、給与は会社からもらうのではなく、店に来てくださったお客様からいただくということを初めて知って嬉しかった。」と、初めて働く感想を生徒が少し照れながら話してくれました。たった3日間でも、東城店長の熱い想いは、きちんと3人の生徒たちに伝わっていたようでした。

一緒に現場で働いていたパートナーたちも、「若い人たちと一緒に働くところも元気に働けて楽しいよ!」と、インターンシップを受け入れたスーパーの店内は、元気なパワーと笑顔に溢れていました。

「本日に偶然なんですけど、今回インターンシップとして受け入れた生徒さんの中に、私の甥っ子がいたのにはビックリしました!」と、体験後嬉しそうに報告してくださったのは、郡山営業所副所長・増子正知さん。

「身内が日中どこでどんな仕事をしているのか、学生さんには普段見ることがないですよ。甥も、初めて見る。会社人としての私に緊張している様子でした。私も、甥に働いている自分の姿を見てもらうことができた良い機会になりました。また、我社ではインターンシップに来た生徒さんと同じ学校を卒業した社員には、積極的にインターンシップ担当になってもらっています。お互いに、『自分の高校の先輩が働いている姿』、自分の後輩が、働いている自分を見てくれる姿、には良い刺激を受けているみたいですよ。自分の後輩に、『プロの仕事を見せてもらえた』なんて言ってもらえて、すごく嬉しそうに働いていましたね。」

一日つきっきりになる社員は大変だけど、それ以上に得るものや感動は大きいものだと増子さんは語りました。

「本日に偶然なんですけど、今回インターンシップとして受け入れた生徒さんの中に、私の甥っ子がいたのにはビックリしました!」と、体験後嬉しそうに報告してくださったのは、郡山営業所副所長・増子正知さん。

「身内が日中どこでどんな仕事をしているのか、学生さんには普段見ることがないですよ。甥も、初めて見る。会社人としての私に緊張している様子でした。私も、甥に働いている自分の姿を見てもらうことができた良い機会になりました。また、我社ではインターンシップに来た生徒さんと同じ学校を卒業した社員には、積極的にインターンシップ担当になってもらっています。お互いに、『自分の高校の先輩が働いている姿』、自分の後輩が、働いている自分を見てくれる姿、には良い刺激を受けているみたいですよ。自分の後輩に、『プロの仕事を見せてもらえた』なんて言ってもらえて、すごく嬉しそうに働いていましたね。」